



第5回 クラスの小さな仲間たち

カナヘビの卵を持ってきました。家で飼っているカナヘビが、6月末に産卵したものなので、夏休み前までには孵化したらいいなと思っています。（孵化まで大体4～5週間）

生まれたてのカナヘビはとても小さく、エサを与えるのが大変ですが、カナヘビやトカゲを探究テーマに選んでいる子やプロジェクトで飼育をがんばっている子がいるので、今年は赤ちゃんカナヘビも育ててみようと思っています。

また、この時期はカナヘビやトカゲが非常によくとれます。教室でもこの3日間だけでカナヘビが3匹、トカゲが2匹増えました。

今回は2年生が教室で飼育しているカナヘビやトカゲを紹介しながら、その魅力をお伝えさせていただきます。



【カナヘビの卵】

カナヘビ

昔の人はヘビとトカゲをあまり区別しなかったそうで、かわいらしいヘビという意味で「愛蛇」と呼ばれていたそうです。

・しっぽが長くてスマート

しっぽの長さは、胴体の約2倍です。モデル体型で惚れ惚れします。

・しぐさがかわいい

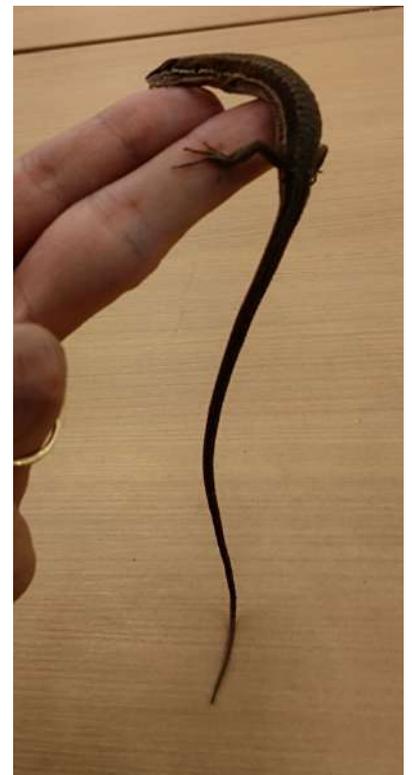
トカゲと違って土に潜らずに、よく姿を見せてくれます。日向ぼっこシーンはとてもキュートです。

・よくなつく

飼ってしばらくすると、気軽にハンドリングできます。虫にはない魅力で子どももよく手や頭にのせています。

・触り心地がいい

ぷにぷにとした感触とざらざらした肌ざわり、触っていると非常に気持ちいいです。



【しっぽが長い！】



【爪で器用にしがみつのでハンドリングが楽しい！】



【ご機嫌ななめなのか全然出てきてくれませんでした】

トカゲ

カナヘビもヤモリも、トカゲの仲間ですが、ここでは「ニホントカゲ」のことを言います。幼体は尾がメタリックブルーで、子どもたちに「虹色トカゲ」と呼ばれる憧れの存在です。背中の中筋もエキゾチックです。

・しっぽが切れやすい

自分の尾を切る「自切」は、カナヘビもヤモリも行いますが、トカゲは特に自切しやすいです。デリケートな子が多いのかもしれませんが。

・恐竜顔（ドラゴン顔？）

かなり恐竜の顔をしています。アゴも大きく噛む力も強いです。たまに噛まれた子が泣く子がいます。さすがの恐竜顔です。

・触り心地がいい

つるつるすべすべです。鱗の感じがカナヘビとは全然違います。どちらの触り心地も甲乙つけがたい。

・色とりどり

幼体は黒い体に縦縞で尾が青く、成熟したオスはあごが赤くなるなど色の変化が美しいです。右の写真の子も、あごが赤いので繁殖期の雄ですね。



【メタリックブルーの尾と縦縞がいい！】



【ジュラシックパークに出てきそうです】

本日、「全クラスでカナヘビを飼育する」という教員人生初の快挙を果たしました。生き物好きな子どもたちと心の広い先生方に感謝です。（今でもたまにMs.Amyはトカゲに驚いて悲鳴をあげていますが・・・）

なかなか家では飼えないというご家庭も多いと思うので、こういった取り組みが、子どもの生きた体験となり、興味・関心を広げることに繋がればなと思っています。